

「ブータンの奇跡 ブータン人が日本を好きな理由」

参考著書「人生の目的に気づく24の物語」中山和義著より

GNH（国民総幸福量）が高いブータンに行ってみると...

ブータン人の皆さんは、日本人にとっても親切でした。

その理由は、ブータンに一生を捧げた西岡京治さんの活躍にあります。

彼は海外技術協力事業団の事業の一環として、ブータンに農業指導のために派遣され、妻と一緒に赴任しました。

しかし、当時のブータン人の日本人に対して冷たく、最初はわずかな土地しか与えてもらえませんでした。

でも彼はあきらめません。

その小さな土地に日本から持ってきた大根を植えると必死に育てました。

そして、ブータン人が見たこともない大きな大根を作ることになりました。

実績を認められた彼は国王から広い農場を任せられることになり、彼の農業技術は、やがてブータン全国に広がっていきました。

ある日、彼はブータンで最も貧しいシェムガン南部の開発を頼まれました。

この地域では焼畑農業が普通だったため、畑作に切り替えてもらうのは簡単なことではありません。

困難を覚悟した彼は妻と子供を日本に返すと、村人と5年間、800回にも及ぶ話し合いを行って、畑作への変更を説得しました。

やがて、彼の熱意に動かされて、村人たちは力を合わせて斜面に水田を作っていきます。

完成した18万坪の水田が棚田として並ぶ光景は、まるで日本の風景のようでした。

その働きに感謝した国王は「ダジョー」というブータンでは最高の称号を彼に与えました。

外国人で「ダジョー」の称号を与えられたのは彼だけです。

1992年、不意の病に倒れて、彼は亡くなりました。

ブータンに来てから28年後のことです。

葬儀はブータンの国葬で行われ、彼にお世話になった5000人以上の人がブータン全土から集まりました。

シェムガムの村人から届いた電報には、

**「ダジョー西岡。私たちはあなたを一生忘れません。
あなたの献身的な働きがあったからこそ、今の私たちがあるのです」**

と書かれていました。

彼はブータンで「農業の父」と呼ばれて、今でも多くのブータン人に尊敬されています。

コメント

彼の一生はブータンの人のためにあったと思います。

本当の熱意が人を動かし、そして国を変えました。

1人の人間の熱意が国を変え、さらに国と国との関係も変えることができるのです。